

令和5年度  
第2回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議

令和5年11月7日

会議要録

## 令和5年度 第2回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議 会議要録

会議体の名称	令和5年度 第2回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議	
事務局(担当課)	島田市市長戦略部戦略推進課	
開催日時	令和5年11月7日(火) 10:00~11:30	
開催場所	島田市役所3階大会議室	
議題	<協議事項> (1) 島田市デジタル田園都市構想総合戦略(案)について	
出席者	創生市民会議 構成員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島田市自治会連合会常務理事 池ヶ谷 孝</li> <li>・島田青年会議所理事長 松山 寿明</li> <li>・(株)FM島田代表取締役 飯塚 誉之</li> <li>・島田市小中学校PTA連絡協議会会長 天野 大輔</li> <li>・NPO法人クロスメディアしまだ理事長 大石 歩真</li> <li>・島田商工会議所副会頭 鈴木 國近</li> <li>・島田市商工会副会長 森下 真琴</li> <li>・島田市観光協会理事 西村 孝明(代理出席 物販専門員 吉田 壮登)</li> <li>・島田市農業経営振興会会長 鈴木 聡</li> <li>・金谷高等学校校長 山田 正訓</li> <li>・島田市校長会会長 山口 泰弘(代理出席 副会長 郷 裕利子)</li> <li>・島田掛川信用金庫地方創生部長 鈴木 康司</li> <li>・島田榛北地区労働者福祉協議会会長 樋熊 敦志</li> <li>・島田公共職業安定所所長 松永 進</li> <li>・静岡県立大学国際関係学部1年 鈴木 実幸(欠席)</li> <li>・静岡県立大学食品栄養科学部3年 瀬川 遥奈</li> <li>・静岡県立大学経営情報学部3年 八峠 友香</li> <li>・島田樟誠高等学校2年 梅原 利季(欠席)</li> <li>・島田樟誠高等学校2年 野地 真実(欠席)</li> <li>・島田市長 染谷 絹代</li> </ul>
	オブザーバー	静岡県中部地域局長 鈴木 史朗
	市関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島田市副市長 牛尾 伸吾</li> <li>・島田市教育長 山中 史章</li> <li>・島田市市長戦略部長 佐藤 修</li> </ul>
	事務局	島田市市長戦略部戦略推進課 課長 中村 広史 係長 大石 一晴 主査 杉山 知史 主事 牧野 匡成

配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島田市まち・ひと・しごと創生市民会議構成員名簿</li> <li>・島田市まち・ひと・しごと創生市民会議席次表</li> <li>・【資料1】島田市デジタル田園都市構想総合戦略(案)について</li> <li>・【資料2】高校生ワークショップについて</li> <li>・【資料3】島田市デジタル田園都市構想総合戦略 概要(案)</li> <li>・【資料4】島田市デジタル田園都市構想総合戦略の素案について</li> <li>・【資料5】島田市デジタル田園都市構想総合戦略(素案)</li> <li>・【資料6】市民会議・金融機関会議での御意見と具体的な施策 対応表</li> <li>・【資料7】施策の目標及び重要業績評価指標(KPI)一覧</li> </ul>
------	---

<開会の挨拶>

○市長戦略部長

皆様、御多用の所、御出席を賜り、誠にありがとうございます。  
定刻となりましたので、ただ今から、「令和5年度第2回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を開催させていただきます。  
本日の司会を務めさせていただきます島田市市長戦略部長の佐藤と申します。よろしくお願いいたします。  
それでははじめに、島田市長の染谷市長から、御挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

○市長

皆様、こんにちは。  
本日は御多用の中、「第2回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」に御出席を賜りまして誠にありがとうございます。  
この会議は、今年度2回目になりますが、新庁舎での会議は初めてでございます。  
この新庁舎、10月10日から業務を開始いたしました。  
新庁舎は誰もが訪れやすく、快適に過ごせる、利用できる庁舎であること、災害時の復旧・復興の拠点となる、災害に強い庁舎であること。そして、経済性、効率性、かつ環境性能を備えた庁舎であること、この3つにこだわりを持って建設をした庁舎であります。  
今後は、新庁舎を拠点として、気持ちを新たに職員一同が市政運営にまい進してまいりますので、皆様どうぞよろしくお願いを申し上げます。  
さて、前回の会議では、島田市デジタル田園都市構想総合戦略に掲げる地域ビジョンや概要の案のお示しをいたしました。  
委員の皆様からは、今回の改定のポイントにもなります、デジタルの力を生かした施策について、島田市 LINE 公式アカウントを使った取組やG I G Aスクール構想による1人1台端末の取組など様々な御意見を頂戴いたしました。  
さらに高校生や大学生からは御自身の体験に係るお話や、若者の人口流出に係る意見に加え、デジタルの力を生かした情報発信や施策の必要性について、御意見をいただきました。  
その後、高校生を対象としたワークショップなどを開催し、多くの皆様から御意見を伺ってまいりました。  
本日の会議では、皆様からの御意見を踏まえて作成した島田市デジタル田園都市構想総合戦略の素案をお示しし、御意見を頂戴したいと思います。  
限られた時間ではございますが、忌憚のない御意見や御提言をいただき、本日の会議が有意義なものになりますよう、皆様のお力添えを申し上げます。  
本日どうぞよろしくお願いいたします。

○市長戦略部長

ありがとうございました。  
なお、本日は静岡県立大学国際関係学部1年 鈴木 実幸 様、島田樟誠高等学校2年 梅原 利季 様、同じく島田樟誠高等学校2年 野地 真実 様 につきましては、御都合により欠席となっております。

おります。

それでは、次第に沿って、早速、議事に入っていきたいと思います。議事を進めるにあたり、「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議設置要綱」第3条の規定に基づきまして、議長を染谷市長にお願いしたいと思います。

市長、よろしくお願いいたします。

<議事（協議事項）（1）>

○市長

それではしばらくの間、議長を務めさせていただきます。

皆様どうぞ、よろしくお願いいたします。

早速、議事に入ります。

本日の議事は、協議事項が1点ございます。

協議事項の(1)「島田市デジタル田園都市構想総合戦略（案）について」、まずは、資料1から資料3まで、事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料1～3の説明

- ・策定の趣旨
- ・これまでの経過
- ・第1回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議の振り返り
- ・今後の予定
- ・高校生ワークショップにおける高校生からの意見、総括
- ・総合戦略の概要（案）

○市長

ただいまの説明について、質疑、御意見等ありませんか。

もしなければ、先に進めさせていただきたいと思います。

それでは、資料4から資料7まで、事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料4～7の説明

- ・総合戦略改訂の主なポイント
- ・総合戦略素案
- ・総合戦略（案）の概要
- ・総合戦略（案）の基本方針
- ・目標とする人口
- ・基本目標
- ・施策の目標及びKPIの設定について

○A構成員

教育に関してICTの環境が充実してきており、1人1台端末が用意されている。

素晴らしい取組だと思う一方で、修理や更新といったコスト面などが今後の課題になってくると思われる。

また、SNSの話が出ていたが、基本はどうやって業務を効率化・合理化していくか。

民間でDXというワードを知らない人はほぼいないと思うが、まだまだ実行できているという浸透性は、不十分だと思っている。

そういったところに取り組めている人はほとんどいないと思っている。

そういったところを一緒にサポートしていただきたい。

○教育長

学校現場では、1人1台端末としてクロームブックを用意しています。

数年前では考えられないような、自分たちがやりたいように探求を行う授業なども展開しています。

また、プレゼンテーションをしながら説明するということを小学生・中学生問わず、大人と同じようにできるようになっている印象があります。

これから生きていく中で活用する能力を育んでいると実感しています。

○市長

修繕費や代替品等の確保に今年度補正予算を組みました。

導入3年目となりますが、今後も更新に向けての財源確保は課題であります。

この流れは変えられないので、子どもたちに教育が根付くように頑張っていきたいと思います。

○B 構成員

前回の会議で中小企業のデジタル経営チェックをしているという話をした。

9月に結果を集計したところ、デジタル化の取組状況について、有効性を理解しながらも人材の育成・採用をしていないのでデジタル化を進められないというのが全国の平均だった。

一方、当地区においては、デジタル化の必要性を感じていない事業者が多く、取組が進んでいないという結果報告だった。

ITツール導入効果も分からない回答する事業者が非常に多いというのが当地区の特性という結果が出ている。

DXに対して設備投資の支援をするより前の、デジタル化によって何ができるようになるのかをセミナーなどで周知していかなければならないという段階である。

調査結果については、島田市に提出済みなので参考にさせていただきたい。

○C 構成員

中学生以下については、デジタル化というものが当たり前のことになっている。

それに比べて一定の年齢以上はアレルギーのようになってしまい、慣れるところから始めていなければならぬという層が一定数いる。

人材を募集するときに Excel・Word ができるという条件を付けるが、若い世代にとってそれは当たり前のことであり、提案ができるというスキルを持っているようになってきている。

今回の総合戦略に記載されている中で、SDGs の理念「誰一人取り残さない」が大事になってくる。

商工会は高齢の方が多いので、今後そういった施策に取り組んでいってはどうかと感じている。

- D 構成員
- 島田商工会議所としては、基本方針の中で「日本で、世界で、稼ぐ産業の創出」に視点がいく。  
マスコミから来年の賃上げについて言われている中で、個々の企業の努力はあるが、経済基盤の整備、特に道路整備が重要になる。  
【資料5】の11ページに国道1号島田金谷バイパスや国道473号について記載されているが、東光寺ICから吉田ICまでを結ぶ部分で事故があったことも踏まえ、企業ができない社会インフラの充実を図っていただきたい。
- 市長
- お金をどのようにして集めるのかが私の仕事と思っていますので、特に道路関係については、名古屋や東京などに足を運び、要望を進めています。  
国も県も道路予算の削減を進めていますが、直轄の高速道路等に対しては予算が投入されています。  
地方の道路の必要性は地方創生の一丁目一番地なので、それを伝えつつ市としても力を入れていきたいと考えております。
- E 構成員
- 農業に関しては「新たな付加価値による農林業で稼ぐ」としていただいているが、農業界の現状は個々の経営者の集合体であり、決算書すら作れないという方が多い。  
事業主として付加価値を創出できない方が大半である。  
DXによって経営分析が行われ、経営状況が明瞭に数値として分かると心が折れてしまう。  
農業者は農地などの資産を有効利用することを義務付けられている中で、自分のことを騙しながら農業を行っている方が大半である。  
その中で、島田市の6割は山林、1割が農地というのは由々しき問題であり、継承する方がいなかったら山林や農地は守れない。  
自然豊かな島田市というが、人の手が入らず荒れてしまった山林や農地は人に脅威を与えてしまう。  
スポットの施策ではなく大きな目で農業を捉えていただき、分野横断をして新しい農業のあり方を考えていただき、みなさんに周知していただく必要性を感じている。
- F 構成員
- ラジオは音なのでデジタルの関係がないと考えがちである。  
音と映像を組み合わせ、SNSやホームページと何かつなげられないか島田商工会議所と相談をしている。  
また、災害情報の収受として、8月から危機管理課と相談して市内の防災会議に出席し、スマートフォンでラジオを視聴できることを周知している。  
そんな中で、自治会からはパンフレットが欲しいと依頼をいただいた。  
笹間・伊久美・大代などの電波が届かない地区に行って、スマート

フォンでラジオを視聴できることを周知しているが、笹間交流センターなどでは非常に熱心な活動をしており、地域のものをもっと発信していきたい。

そのためにはデジタルが絡むため、スマートフォンの力を市と協力して周知していきたい。

デジタルに絡むことをどう進めていけばよいか、戦略推進課とも相談していきたい。

- 市長 市の LINE 公式アカウントのトップページの下に、FM島田へのリンクがあり、そこから聞くことができます。  
ラジオの電波が悪い場所やラジオがなかったとしてもスマートフォンで聞くことができるので、周知していなければならぬと思っています。
- G 構成員 河川が土砂で埋もれてしまったときに、市に土砂の回収を依頼するが、回収する場所がないとしてすぐやる課も脇に寄せるだけでそのままになってしまっている。  
また、全国的にクマの被害が出ているところであるが、シカやカモシカが出たり、耕作放棄地が増えたりしている。  
山間部では茶園が耕作放棄地となっている。  
デジタルを推進する一方で、環境のことも取り入れていただけると助かる。
- H 構成員 【資料5】の 27 ページに「将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合」という K P I があるが、小学校の基準値が 87.6% に対して、中学生の基準値が 69.9% と減少している。  
その原因と対策について教えていただきたい。  
また、デジタル田園都市構想総合戦略ということで、デジタルを活用してどういう方向にもっていくのか教えていただきたい。
- 教育長 子どもたちが夢を持って将来に向かって頑張りたいという思いは、いつも持っています。  
大津小学校などは将来の夢を書いてもらい、掲示するなどしています。  
小学生は漠然とした夢もあり、それでも将来の夢としてそれぞれ掲げていますが、中学生になると現実が見えてきて、将来の仕事など具体的なものを出してくるため、パーセンテージが低くなってしまおうと考えています。  
本市としては、「夢育・知育」ということで、卒業生などから活躍している先輩を呼んで、頑張れば夢を果たせるという体験をさせるような活動も重点的に実施しており、できるだけ中学生の数字も上がるような取組を行っています。  
数字としては、もう少し上げていきたいと思っています。
- I 構成員 子どもたちに将来の夢や目標を持たせたいということは常日頃考え

ているが、非常に予測不可能な時代に突入している。  
今ある職業が変わり、これまでになかった職業が出てくるようになった中で、今ある職業をイメージするよりも生き方やあり方に焦点を当てていかなければならないと思っている。

どういう夢・目標の持たせ方が適切なのか、職業としてしまうことで夢では破れてしまうという懸念もあり、子どもたちへの働きかけが転換している時期だと思っているので、検討していきたい。

○市長 インフルエンサーや YouTuber などを、将来の夢や職業にしたい子どもが増えてきて、時代は変化しているということはいつも思っています。

○J 構成員 「将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合」は小学生、中学生とだんだん率が下がっているところを見ると、高校生は更に下がると思われる。

現実を見ていくことはあるが、実際のところは自分の能力だけでなく家庭の経済力などもあり、高校になるとそれが顕著に出てくる。人口減少が話題になっているが、11月1日付けで県の教育委員会が公立高校の生徒募集計画を発表した。

全県で23学級920人の過去にない定員減となり、激震が走った。島田市内では島田高校、島田商業高校が1学級の減で、島田商業高校の定時制は募集を停止する。

唯一明るい材料としては、金谷高校が閉校した後のふじのくに国際高校が4学級の160人定員となる。

公立高校の経営が岐路・転換期に入っていると感じた。

子どもの人数が減っていることが元々の原因ではあるが、仕事がある、子育てがしやすい、防災体制が整っていて安全・安心といった島田市が魅力あるまちになることで人口の増加につながっていくのかと思う。

また、高校生ワークショップで生徒たちから子育て、福祉、高齢者支援といった意見があったということで嬉しく感じた。

12月からパブリックコメントを行うということだが、高校生や大学生などの若者の言葉を大切に拾っていただきたい。

○市長 若者の言葉として中学生、高校生、大学生に、まちづくりや市政運営に関わっていただく機会を増やしていきたいと考えています。

○K 構成員 新たな施策として「災害等から生命と暮らしを守る体制の整備」が加わったことが印象に残った。

大学も防災には取り組んでおり、防災について学んでいる。

災害は対策をすれば防げることも多いと思うが、面倒くさがる方が多いと感じている。

南海トラフの可能性も高く、台風による災害も最近多いので、そういった災害対策に取り組んでいただけるとありがたいと感じた。



- 市長 災害もデジタルと関係ないことはなくて、中小河川に水位計を取り付けて、河川に行かなくてもデジタルで水位が分かるといった取組を進めています。
- L 構成員 市内の中学校に通っていた頃は、島田市緑茶化計画というブランドメッセージを目にする機会が多かったが、市外の高校や大学に通うようになると島田市に触れる機会が少なくなった。市外におけるシティプロモーションが少ないと感じる。島田市にはS L など強い観光資源があると思っている。S L とお茶を掛け合わせると島田市にしかない魅力になる。差別化できる魅力があれば、市外からの印象も強まるのではないかと感じた。
- M 構成員 なくなる仕事が多々あるなど、子どもたちの将来の職業が不明瞭な状態である。島田第二中学校で探求学習の最終報告会があり、参加させていただいた。アートや地域づくり課題を提示したが、生徒から「企業がどう変化していくか分からないが、地域は残っていくので地域づくりが大事」という意見があり、とても納得した。下部の計画かもしれないが、それぞれの計画の下に地域活動やN P O などがあり、そういった方々の地域を支えあっていく土台が重要であると考えている。町内会、自治会といった地域の活動は表には出てきにくいですが、地域を支えている活動は多く、そういったものをトータルでサポートするものが、どこかで盛り込めていければと感じた。
- 市長 デジタル田園都市構想総合戦略を紙で書いた計画で終わらせないように、まちづくりや地域づくりをしている方々との連携は、欠かすことのできないことですので、しっかりと踏まえながら計画を練っていきたいと考えています。
- N 構成員 市内で働いている方には市外在住の方もいる。市の LINE 公式アカウントについて、市外在住の方の目にどれほど留まっているのか分からない。紙媒体をもう一度試してみて、そのあとでデジタルを考えていくなど、そういった点も考慮していただければと思う。
- O 構成員 【資料5】の16~17 ページに「地域産業の競争力を高めて稼ぐ」とある。職業というものが新しくなる中で、どういう職業が生まれ、どういう職業がなくなっていくのか分かりにくくなっているという意見があったが、K P I にあるように「中心市街地の新規雇用数の増加」ということで、島田市としてどういった仕事・人材をまちなかに求めるのか知ることができれば、ハローワークも連携しながら求人

発信ができると感じた。

また、中学校、高校、大学では企業を知るためにインターンシップや課外授業が一般化しているが、人手が不足している農業や建設などの地盤産業の分野を、小学校のときから知ってもらうための国交省の授業があるなど、企業の魅力を案内することに関われればと感じた。

○事務局

中心市街地については、中心市街地活性化基本計画を策定しています。

新しい店をオープンすると雇用が生まれるという従来のものから、企業の事務所を市外から中心市街地に移転していただくことによって昼食時にまちなかに人が増えるなど、事務所というものも意識しながら人数を増やしています。

駅の南側の特種東海製紙の跡地などにも工場ができれば、働く人が増えることをイメージしています。

○P 構成員

島田商業高校と一緒に取組をさせていただいている。

11月3～4日に開催した竹明かりのイベントで島田商業高校の生徒が自分たちでチケットを作るなどしてくれた。

その前段階として KADODE 00IGAWA で夏祭りを行った際は、ボランティアとして2日間で80名の生徒にエントリーしていただいた。夏祭りのときは観光協会でお膳立てをしたが、竹明かりでは生徒が自発的に2日間で10万円程度稼いでいた。

生徒の自発性が促されており、一緒にやってきて良かったと感じた。また、島田商業高校、観光協会、島田市で、観光庁の「地域活性化のための観光教育推進事業」に採択され、ニセコ、釜石、島田の3地域で連携して、大阪へ島田商業高校の生徒と販売会に行ったり、三重で開催した高校生の発表会においてネクスコの賞をいただいたりした。

どうしたら観光協会に入れるのかといった声もあり、自分が高校生の頃にやってみたいと思っていたことが、今は一緒にできているので、そういったところを進めて島田を盛り上げたいとか、島田を好きになってほしいという人が育つような環境づくりを行っていきたい。

○市長

ありがとうございます。

まだまだ御意見尽きないとは思いますが、最後にオブザーバーとして御参加いただいております中部地域局の鈴木局長様から本日の会議について御意見をいただきたいと思っております。

○鈴木局長

総合戦略や総合計画などは、自治体として責任を持って取り組むべきものを体系化し、達成すべき目標や手段を明確にしたものですが、自治体として責任を持って取り組むため、夢を盛り込むのが難しいと思っています。

総合戦略の意味は行政だけが作るのではなく、地域住民や関係者が

認識を共有して、一緒に行動するための指針になるようなものです。正に本日の会議の出席者は、この計画の立案者であり執行者でもあります。

小学生から中学生になって、夢を持つ子が少なくなっているということで、子どもは大人の鏡だとよく言いますが、大人が夢を持たなくなってしまうからなのではないかと思います。

そうした中で、夢に関することは盛り込みにくいと思いますが、市民と一緒にこの計画を実行していくためには、将来の島田市に夢や希望が持てるような書きぶりにすると、よいのではないかと感じました。

デジタル田園都市構想総合戦略を策定するに当たって、市民アンケートやワークショップをやって、これからパブリックコメントをやるということで、市民みんなで作った計画になると思います。

出席者の皆様がパブリックコメントに意見を出してみようと周りに声をかけて、多くの意見が出てくればよいと思います。

それを踏まえて計画が策定できれば、自分たちの計画となっていくのではないかと思います。

計画が策定できればあとは実行につなげていただけなので、楽しみにしています。

#### ○E 構成員

農業界は沈んでいる部分もあるが、若手などの活動的に動いてくれている方もたくさんいる。

お茶の木から紅茶が作れるが、地紅茶サミットの誘致を考えている。農業は0から1を生み出す産業であり、その後の次の産業が掛け算をしていく。

0から1を生み出す産業は本当に少なく、その基幹産業として島田市に茶業があることは有意であると考えている。

基幹産業である茶業をフィーチャーしていただきたい。

環境産業が注目されているが、島田市はそういった自然エネルギーを多く享受している。

農業の現場でそれをエネルギーに変えられるということを視野に入れながら、今後の農業をもう一度構築していきたいと、現場の若手は考えている。

#### ○市長

ありがとうございます。

若手の茶農家さんたちが活躍してくれているということは、よく知っておりますし、地紅茶サミットが開催されますが、若手を中心に準備してくださっているので、まちを挙げて応援していきたいと思っています。

観光産業も計画の中に、しっかり盛り込んでいくという視点は持っておりますので、この次具体的なお話ができればと思っています。環境については総合計画の中に盛り込んでいくことではないかと考えています。

本日は、皆様からも前向きな御意見、御提案が出されまして、有意義な情報交換の時間になったと思います。

本日、皆様からいただきました御意見につきましては、今後の事業に生かしてまいります。

皆様の御協力によりまして、本日の議事につきましては、無事終了いたしました。ありがとうございます。

それでは、会議の進行を事務局へ戻します。

○市長戦略部長

ありがとうございました。

皆さま長時間に渡り、御議論いただきましてありがとうございました。

最後に、次回の市民会議の予定をお知らせさせていただきます。

本日の次第、その他の欄にも記載してございますが、令和6年3月22日（金）午後1時30分から、市役所3階大会議室で開催を予定しております。

近くなりましたら、委員の皆様に変更御連絡させていただきたいと存じます。

それでは、以上をもちまして、「令和5年度第2回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を閉会とさせていただきます。

本日は、御多用の中、御出席いただきまして、誠にありがとうございました。

～終了（11:30）